

# ハロー

1990年(平成2年)

4月15日

事務局:

2丁5-1(保育園)

☎98-4500

赤坂台校区でも

## ボランティア活動スタート

「ハロー」創刊号で、地域福祉を支えるボランティア活動への参加を呼びかけたところ、早速たくさんの方々からお申し出がありました。

赤坂台校区福祉協議会(校区社協)では、二月一七日(

土)、自治会館でボランティア懇談会を開催、二七名が参加されました。

校区社協の為村会長と佐藤副会長が、校区の福祉問題の現状、校区社協の活動状況、ボランティア活動の意義を説明、協力をお願いしました。

参加者からも、身近な経験をふまえた活発な意見がだされ、まずボランティア・スクールでのお互いの勉強と研修から活動を開始することになりました。そこで、校区社協で、下のようにボランティア・スクールを開催、たいへん好評でした。

今後このような催しを計画しますので、今回はおいでになられなかった方も、どうぞご参加ください。

ボランティア

スクール 日程

◎会場 赤坂台自治会館

◎毎回午後二時～四時

◇第一回・三月二四日(土)

「社会福祉と地域福祉」

講師 佐藤祐弘(赤坂台保育園理事長・社会福祉士)

◇第二回・三月三一日(土)

「社会福祉の諸制度」

講師 八田忠敬(堺市福祉部障害福祉課長)

講師 辻尾健一郎(堺市福祉部老人福祉課長)

◇第三回・四月七日(土)

「《寝屋川市民助け合いの会》の活動について」

講師 高橋伸行(寝屋川市民助け合いの会)

◇第四回・四月一四日(土)

福祉映画と「まとめ」

講師 為村収二郎(赤坂台校区福祉協議会長)

# 高齢・障害者対策を

## 赤坂台校区福祉協議会総会

今年度赤坂台校区福祉協議会（校区社協）総会は、一月二八日、自治会館で開催、とくに今回は昨年末開設の泉北警察署赤坂台派出所員や派出所誘致にお骨折りいただいた

### 芳志お礼

このたび新装開店の赤坂台マーケット「アペティート」から、開店記念として、金三〇万円也を赤坂台校区福祉協議会にご寄付いただきました。

厚くお礼を申し上げます。校区福祉のために、有益に使わせていただきますと存じます。

自治会とが協力して問題解決に当たりたいとの意向を表明しました。

つぎに、堺市社会福祉協議会中辻氏から、重点目標である在宅ボランティア事業についての説明があり、赤坂台校区でも積極的に推進していただきたいと要望されました。

校区社協を構成する各団体の代表からは、それぞれの組織と活動の実情報告と問題提起がなされました。

また、赤坂台校区福祉協議会規約のうち、「委員」を「理事」に改称する件が提案され、全会一致で承認されました。

出席者一同は、住民の一人一人の自覚と協力で、校区社協を中心に、「住みよい赤坂台校区づくり」に取り組み決意を新たに、今年度の総会を無事終了しました。

### 校区社協構成団体紹介①

#### 高齢者クラブ

校区内には高齢者クラブが四つあり、ゲートボール・カラオケ・民謡・民舞・詩吟などの趣味活動、町内・バス停・公園の清掃や老人ホーム慰問などのボランティア活動を行っています。

また、校区高齢者クラブ連合会（会長貝榊忠男）では、春秋の小旅行・秋の演芸大会・不定期の講演会や健康講座などを開催しています。

六〇歳以上の方の入会をお待ちします。

☆松友会（五丁・除市公社）

会長 塩見完二郎

☆長寿会（三丁府住・除高層）

会長 山崎供治

☆七寿会（一丁・二丁・三丁南

四丁）会長 町田武忠

☆むつみ会（六丁）

会長 貝榊忠男

赤坂台校区連合自治会の平成二年度総会は、四月八日（日）、自治会館で開催、左のように主催事業を決定しました。

- 一、赤坂台ふるさと祭り  
（八月一日・二日）
- 二、堺市民オリンピック  
（一〇月一〇日）
- 三、親睦綱引大会  
（開催日未定）

赤坂台  
ふるさと祭り

「ふるさと祭り」は、毎年校区住民のみなさんに親しまれている盆踊り大会をいっそう発展させて、ふるさと創りの中心行事にしようとするものです。

踊りをメインにしなが、校区内のみなさんによる手作

りの趣向豊かな夜店や催しもの、福引大会など、お年寄りから子供たちまで、全住民が幅ひろく楽しめるイベントにしたいと、役員一同で知恵をしぼって計画を練りますので、どうぞご期待ください。いいアイデアをお寄せいただくと幸いです。

平成二一年度

連合自治会行事

堺市民  
オリンピック

堺市民オリンピックでは、赤坂台チームは、いつも好成绩をあげていますが、今年も、これ

までの出場種目に加えて綱引競技にも参加して、大会を大いに盛り上げたいとおもいます。応援をよろしく願っています。

親睦綱引大会

昨年初めて親睦綱引大会を開催しましたところ、一九チームも参加があつて大成功、みなさん楽しんでいただきました。今年も、昨年の経験を生かして、いっそう充実した大会になるように工夫をこらしたいと思います。

奮ってご参加ください。

心配ごと

福祉相談

◆堺市社会福祉協議会 相談室

○ 毎週火曜・金曜日

○ 午後一時～四時

◆泉北梅センタービル

四階第二集会室

○ 毎月第一・第三木曜日

○ 午後一時半～四時

福祉相談

◆堺市社会福祉協議会 相談室

○ 毎週水曜日

○ 午後一時～四時

○ 対象は市内在住または在勤者

※堺市社会福祉協議会

堺市南瓦町二の一

電話三二の五四二〇

## はじめに

ケガをして医師を訪れるまでに、家庭でいろいろな対応がなされていますが、情報過多の昨今、かえって混乱があるようです。日常診療の場で気付いたことを断片的に書いてみることにします。

### 一、手口足の出血のあるケガ

ケガで出血した場合、その根元をしぼって止血しようとすることが多いようです。深い創(きず)で太い動脈が破れているような場合は別ですが、一般にはあまり奨められません。中途半端のしぼりでは、かえって余計に出血したり、あまり強くしぼりすぎて神経や他の軟部組織をいためたりすることもありますが、また粉薬やタバコの葉をま

ぶすことも、出血を止める点でそんなに役立つとは思えません。むしろ、その後の創の処理を難しくするばかりか、創が汚れてバイ菌が着きやすくなります。

このほか、消毒の目的で赤チンキを塗ることも、創の状況を把握するのに妨げとなります。ど

うしてもというなら無色の消毒薬にしてください。

ときには、ヨーは、チンを塗ったり、塩を塗り込んだりしていることもありますが、組織を侵

# 日常小外傷の心得



石上直

害して良くありません。

では、どうすればいいのでしょうか。どうせ医師に診せるのであれば、ケガの局所をできるだけ触らず、つまり余計なことをしないで、あわてずにきれいな布で覆い、しっかり押さえて医療機関へ行くべきです。

砂などで汚れている場合には、簡単に水道水で洗い流すことぐらいはしてほしいと思います。あとは医療機関がやってくれます。

### 二、小範囲のヤケド

ヤケドの場合は、家庭で痛みが和らぐまで水でよく冷やするのがいいでしょう。ただ局面のうえに衣服などがあると、きは、それを無理に脱がそうとしてヤケた皮膚をズリりと剥がさなように、そのまま冷やすことです。いずれは剥が

れてしまいう皮膚ではあっても、初めのうちは、できるだけ温存する方がいいのです。

ヤケドで、ほとんどの方が心配されるのは、痕が残るかどうかということです。

大ざっぱにいつて、ヤケドした瞬間にほぼ決まってしまうのですが、初めは軽いと思っていたヤケドも、その後の対処の仕方、思わぬ痕が残ることがあります。

また家庭での初期手当も後に影響することがあります。アロエを貼りつけたり、皮膚に馴染まない油薬を塗ったり、チンク油を塗ったり、はては醬油をつけたりすることは、汚れたり、かぶれたり、組織を侵害したりする可能性があります。かえって悪いと思います。この場合も、いずれ医師を訪うのであれば、水で冷やすこと以外の手当はしない方が無難でしょう。

三、穴なき比拍や  
捻挫性（ねんざ）

スポーツをする人が高頻度に経験する外傷です。ごく軽いものから脱臼、骨折、靱帯断裂、腱断裂に到るまで、傷

# 呼吸不全と闘う

熊野 裕久

「身障者」という言葉は、私には縁のない響きがあった。病院で医師から、「障害者手帳」を持っていきますか？と問われて、憤然として、「持って

おりません」と答えた。念のために受けた精密検査の結果が「障害者一級」の手帳となったのは、三カ月後のこと、シュンとした気持ちと、ついに来るところまで来たという覚悟の様であった。四十年前に受けた肺結核手

害の種類も程度も、じつに様々です。

したがって、治療もそれぞれの傷害の部位や程度によって単一ではありません。

突き指といえはすぐ引っ張るとか、家庭で湿布だけしていたけれどもなかなか良くな

らな

らな

らな

らな

らな

らな

らな

らな

らな

らな

らな

らな

らな

らな

らな

らな

らな

らな

かと思ひます。以上、日常多い小外傷について、家庭での初療ないし対処の心得を述べました。多少のご参考になれば幸いです。

（赤坂台医療センター「石上外科」院長、民生児童委員）

断することは、必ずしも容易ではありませんが、早目に医師に相談するのが得策ではな

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

あれから半年が過ぎ、近頃は雨の日は容器を背負袋に入れて担いで出かけることもあ

る。他人目も余り気にかからなくなった。

患者会仲間から教わった「息苦しさは仲良くなれ、これが呼吸を楽にするコツ」の一

言は、呼吸不全患者にしか判らない真理、癒らない病気な

ら居直れということだろう。

『ハロー』創刊号を読んだら、福祉活動のボランティア

参加希望者が多いとのことだ

心強い。また、そこで強調されて

いるノーマライゼーション

いかと思ひます。

以上、日常多い小外傷について、家庭での初療ないし対処の心得を述べました。多少のご参考になれば幸いです。

（赤坂台医療センター「石上外科」院長、民生児童委員）

ンのためには、われわれ障害者の側も閉鎖性を取り除く努力をすることが、大きな課題であるように思われる。

【付記】筆者の熊野裕久さん（五丁二六の一〇・電話九六の二〇六〇）は、四十年前の肺結核の後遺症として呼吸不全の障害を持っておられます。

校区内の同じような障害のある方やご家族と、闘病の経験や方法、日常生活の工夫などを話し合えたらとのご希望を持っておられるようです。

お心あたりの方は、熊野さんか福祉協議会までご連絡ください（編集部）。

